

映像文化における日韓ジェンダー比較

大原 志麻

1. はじめに

韓国と日本は地理的に近く、韓国人と日本人のなれそめは遠い古代に遡ることができる。両国の間には人間や文物の長い交流の歴史がある。しかしその歴史は同質的なものではない。特にジェンダーについては、共通点もあるが相違点もある。その鍵となるのは儒教思想である。日本では学問として捉えられている儒教であるが、韓国では文化として存続しており、^{ユギョ}儒教社会であるといわれている。

韓国において、新羅の骨品制、高麗時代の良賤制、中国からきた宗法制度という身分制度¹によって、女性の社会的地位は植民地時期まで低かった。そのため女性の地位の向上を図れるようになったのは解放以後という見方がなされている²。李氏朝鮮初期まで流動的であった性差であるが、ヨーロッパと同様中世末期から、男性優位が確立されていく。15世紀に士林派^{士林派}により、父、夫、息子中心の垂直関係で基本秩序が再編成され、夫婦、父母、子供たちという横の関係が、父子、君臣、嫡庶、長幼という徹底した縦の上下関係に変わり、抑えつけられていた女性の地位をますます下落させた。またそれまで男女の子供に均分されていた財産相続において、娘婿や外孫が妻の家、実家の財産分配の蚊帳の外に置かれ、女性の地位は地に落ちた。

西欧世界においては18世紀から男女同権へとシフトしていったが、韓国では1920年代から30年代まで活躍した「新女性」の出現により、女性問題が活発に議論されるようになってきた。従前の儒教的な家父長制に縛られていた矛盾的なジェンダー構図を改革し、女性個人の問題を顕わにしようとした女性解放の言説であった「新女性」だったが、当時の男性知識人による言論の中で、逸脱、放縦、虚栄、奢侈というイメージを付与され、植民地という時代状況によって厳しい批判を浴びるようになった³。今世紀に至っても男女の性差をめぐる論争は後を断たず、大きな社会問題となっているが、韓国では、今日もなお根強い儒教文化による抑圧的な女性ジェンダーの問題がある。

日本は西洋化という文化改革は行われたが、朝鮮半島のように外国からの支配を受けなかったため、女性にとっては直接的に「(日本人の)男性」という他者が問題とされた。韓国の場合は、男性社会の周縁にさらに近隣の中国や日本という他者が存在し、輻輳的であ

¹ 朝鮮史研究会編『朝鮮史研究入門』名古屋大学出版会、2011年、31-183頁。

² 石島亜由美「韓国への留学—女性学とどう向き合うか」『Rim』9, 76-86頁、83頁。

³ 李南錦「韓国近代における〈女性〉：「新女性」をめぐる(イギリス共同ゼミ)」『大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」活動報告書、平成21年度 海外教育派遣事業編』、186-191頁。

った⁴。

しかし1990年代に入ると、民主化運動の進展によりフェミニズム運動も新たな段階を迎える。女性小説家の活躍もみられ⁵男の視線を意識しない女性の書き手も現れてきている。韓国におけるジェンダー意識の変化は急速で、次々に男女平等を目指した法整備が進み、今日の韓国における女性の権利の確立は、国際的なモデルとするべきものであるとみなされている。このようなフェミニズム運動の影響を受け、文化面においても、特に2000年代からは、女性を中心としたドラマが制作され始められるようになった。しかし、韓国のジェンダー意識は、法整備と平行して直線的に発展していつているのだろうか。女性のあり方はグローバル化されてきた昨今においても、それぞれの文化において様々であり、完全にトランスナショナルなものではありえない。本稿では、女性ジェンダーの特質を、女性を表す新造語である「女子」と「女」の比較、古くから女性を表す表象である猫の日韓比較、そして今や一大産業となっている韓国映画・ドラマといった大衆文化によって表わされる女性の図式から考察し、日本との比較を交えて理解を深めたい。また本論は、主に2011年12月2日に学部長裁量経費言語文化学科重点によって催された韓国・ソウルの世宗大学での研究報告⁶と質疑応答を基とする。

2. 女子と女⁷

近年、日韓で女性を巡る周辺現象において「女子」そして「女」が多用されている。日本の「女子」は、単に女の子や若い女性のみを指すのではなく、例えば「40代女子」や「大人女子」のように高い年齢層の女性も含んでいる。また「女子力」や「女子会」のように、女性の周辺の事象を指す際にも用いられる。このように、現代の日本の「女子」は、指し示す対象が非常に曖昧であり、女性周辺の多様な事象において用いられる包括的な言葉である。また、現代の「女子」が多用する表現として「かわいい」がある。本来は小さいものに対する情愛や愛着を示す語であったが、今や「女子」は、本来「おいしい」と言うべき食べ物にも「かわいい」という表現を用いるなど、何に対しても「かわいい」と評し、更には「大人かわいい」「きもかわいい」等といった造語まで使用するようになった。この「かわいい」という語も「女子」と同じく、明確な定義が存在せず、線引きが曖昧なまま使用されている状況である⁸。

4 石島亜由美「韓国への留学—女性学とどう向き合うか」『Rim』9, 76-86頁、81頁。

5 きむふな「韓国女性文学の今日」『社会文学』27, 82-89頁、84頁。

6 2011年12月2日、韓国・ソウルの世宗大学校人文科学部日本語日本文学科の李秉鎮教授と、同学科の韓国人学生の協力を得て、世宗大学において「ジェンダー比較」をテーマに日韓合同ゼミを行った。日韓それぞれの女性についての議論を交わし、現地韓国の現状とリアルタイムの情報を提供して頂いた。

7 この項目は言語文化学科采優里「現代日本における女子」報告と質疑応答をベースにまとめた。

8 四方田 犬彦『「かわいい」論』筑摩書房、2006年。

一方の韓国には「女」^{ニョ}という語が存在する。代表的なものとして「味噌女 (된장녀)」^{テンジャンニョ}⁹と

「ベーグル女 (베이글녀)」がある。まず「味噌女」^{テンジャンニョ}とは、身体のラインを強調する服やブランド品を身に纏った、虚栄心の強い女性のことを指すという。流行には敏感で、英字新聞や専攻の書物を片手にスターバックスのコーヒーを飲む、男性に甘えて奢ってもらう等、お金は無いがブランド物を身に付けている、高慢で見栄っ張りというマイナスイメージをもつ語であり、そのような女性たちを揶揄・非難するために作られた語である。数年前から韓国ではカフェ文化が広がり、街中では至る所にお洒落なカフェが存在する。それらはどれも欧米のスタイルを取り入れたもので、海外に本社のある店舗も多い。中でもとりわけ人気の高いのがスターバックスである。生活が苦しくても、昼食を抜いてでもスターバックスのコーヒーを飲むことにステータスを感じるというものである¹⁰。このように

「味噌女」^{テンジャンニョ}は否定的なイメージを全面的に押し出した造語である。

二つ目の「ベーグル女」^{ニョ}とは、「ベイビーフェイス」と「グラマー」を略した造語で、顔は幼いがスタイルはグラマーな女性のことを指す。近年の韓国では「ベーグル女」路線の女性が人気を集めているようである¹¹。しかし「ベーグル女」^{ニョ}という語には、女性を性的な対象として捉える男性の視線が介入しており、女性としては不愉快に感じる側面もある¹²。

⁹ Real Korea 「テンジャンニョ」

<http://blog.goo.ne.jp/ku310/e/dd51bec38d91ce5d1dcad26daf9e1e63>、2011年12月20日。

韓国の大学生は2007年4月付の自身のブログにおいて、「味噌女」^{テンジャンニョ}を以下のように定義している。① 文化事大主義にかぶれ、ニューヨーカー (New Yorker) に憧れ、彼らの文化を従っているが、「どうせあなたは「テンジャン」(土俗的な韓国人)に過ぎない」という意味で使われる。② 韓国には「頭の中にウンコしか入っていない」という俗っぽい慣用句があるが、ここで「ウンコ」が「テンジャン」に転化した。(韓国では「ウンコ」と「テンジャン」の色や形が似ているとし、よく二つの言葉が一緒に使われる場合が多い。)③「ゼンジャン」(このくそまたは畜生)が転じて「テンジャン」のような表現になることと同様に「ゼンジャンニョ」は「テンジャンニョ」に変わる。

¹⁰ みんなが知りたい韓国文化「韓国人女性は味噌女？」

<http://korean-culture.com/korean-wonam04-miso.htm>、2011年12月20日閲覧。

¹¹ 韓国エンターテイメントポータルサイト★KOARI 「【話題ワード】“ベーグル女”って何？」

http://www.koari.net/bbs/board.php?bo_table=pardon_k_pop&wr_id=13、2011年12月20日閲覧。

¹² 2011年12月2日の世宗大学合同ゼミ。

以上の二語が「女」を用いた造語として一般的に使用されているものである。日本の「女子」のように、特定の集団を指す語としての「女」は、上記の二語の他には見られない。

「犬糞女」¹³「マフラー女」¹⁴のように、社会で起きた出来事から「女」を用いた語が生まれることはあったが、それらはいずれも特定の女性個人を指すものである。日本における「女子」は、特定の女性の集団を指す際にはいかようにでも用いることが可能で、他の語句と組み合わせた造語が作りやすく、指し示す対象も幅広い。しかし韓国の「女」は語義がはっきりしており、日本の「女子」のように線引きが曖昧ではない。どちらも既存の語であったものが、流行を生み出す使い勝手の良いものとして扱われていることは共通しているといえるだろう。また、日本の「女子」が肯定的に用いられるのに対して、韓国の「女」は否定的な側面をもつ場合があるのが特徴である。

韓国の女性の特徴として、確固とした理想像をもつこと、競争心が強いこと、外見重視であることが挙げられる。美容を例に挙げると、「あの女優のようになりたい」「もっと可愛くなりたい」「綺麗になりたい」というはっきりした理想と欲があり、そのために日々の努力を怠らない。韓国化粧品や整形手術が流行するのもそのためである。日本では整形があまり良い印象をもたれないが、韓国では自身が整形したことを口外することは何の恥でもない。それが綺麗になるための当たり前の行為として肯定的に受け入れられる。また、整形手術は他人よりもさらに美しくなりたい、負けたくないという競争心の表れでもある。韓国では「営業職に就く女性はエステに通うべき」と言われている¹⁵。

このような特徴は日本の女性と対照的である。「女子」という語にも表れるように、日本の女性は内面志向で、それほど高い目標をもたない。自分よりも可愛くて綺麗な読者モデルには憧れるものの、確固たる理想をもつわけではなく、「他人より少し可愛く、もしくは綺麗であれば良い」という願望程度のものである。今日の日本女性は、所属集団の仲間にさえ認められれば良いので、韓国の女性のように「完璧」は求めない。強い競争心をもたず、個体識別しがたい似通った格好により、他者との親和性を求める日本の女性¹⁶に、韓国の女性のような上昇志向はあまり感じられない。韓国の女性像は、内輪ではない社会や世界から認められるために美貌を求め、他者に勝つために努力するなど、日本の女性とは

¹³ 2005年6月、ソウルの地下鉄に若い女性が犬を連れ込んだ際、その犬が電車内で排泄した。女性は乗客の注意を聞かず、便の始末をすることもなく電車を降りた。その一部始終がインターネット上に晒されて大きな波紋を呼び、女性は「犬糞女」と呼ばれて非難を浴びた。

¹⁴ 2007年3月、ホームレスに自分の金で酒とパンと買い与え、さらに自分のマフラーを巻いてやった女子大学生が、インターネット上で「ソウル駅のマフラー女」として話題を呼んだ。

¹⁵ 2011年12月2日の世宗大学合同ゼミ。

¹⁶ 内田樹『ひとりでは生きられないのも芸のうち』文春文庫、2011年、31-34頁。

対照的である。儒教文化により、韓国では上下関係を非常に重んじるため、日本のように年上の女性に向かって「かわいい」と言うことは考えられない。韓国では「かわいい」は同年代以下に用いるものであり、年上の女性には「綺麗」や「美しい」といった形容をするのが普通である。それは年上の女性を「成熟した人」として褒めるべきだという考えがあるからだ。

また、軍事政権下において言論統制されてきた韓国では、そもそも文章を読む習慣が日本より乏しい。そのため日本のように数多くの女性向け雑誌はみられず、層の薄さから女性のスタイル、階層、傾向などが雑誌の系統でタイプが分かれることもない。韓国では雑誌は限られた紙面に限られた情報しか載せられず、即時性がないことから、雑誌文化そのものがあまり発展してこなかった。今や韓国では、インターネットが主な情報収集の場であり、メディアが限定的かつ伝統がないことから女性に関する表現が包摂的なものとなりうる土壌が十分に形成されていないともいえる。

3. 女性としての猫の表象についての日韓比較¹⁷

日本と韓国の文学文化における女性をめぐる象徴の一つに、猫がある。女性が猫を用いて表現されたり、反対に猫を女性として表現したりするものである。猫は、日本と韓国の両方で、穀物や書物におけるネズミの害を防ぐために飼い始められた。しかし、日本における猫のイメージと韓国における猫のイメージには、明確な違いがある。日本の場合は、猫はペットとして犬と人気を二分しており、古くは平安文学の『枕草子』や『源氏物語』において、貴族の愛玩動物として可愛らしく上品で優雅なイメージで描かれた。また、日本の農業文化や、養蚕業における猫のネズミを捕る実用性は高い評価を受けた。穀物や蚕などの人間の財産を守る猫の良いイメージは、招き猫や猫神社などの福をもたらすものであると認識された。一方で猫に魔性を見出し恐怖の対象とする化け猫も生まれたが、それが理由で忌み嫌われることもなく、人間に身近な存在であり続けた。『吾輩は猫である』など、猫を擬人化し、主要なキャラクターとして扱う文学や映画は多く、文学文化との関係も緊密である。

韓国の猫に関する先行研究は、韓国と日本の両国においてほとんど行われておらず、資料に乏しい¹⁸。加えて、猫が登場する民話や文学なども他の動物と比べて少なく、韓国人の猫という動物に対する関心の低さがうかがえる。韓国において伝統的な猫のイメージは、「不吉」「憎らしい」「恐ろしい」などの、負のイメージである。近年、若年層を中心にイメージの緩和がみられるが、猫に対して癒しを求める日本に比べ、「眼光が不気味」など、強い嫌悪感を示す人も多く、激しい温度差がある。このような両国における猫の表象において、共通している点は、女性としての猫の表象である。

日本の女性としての猫の表象は、化け猫において多く見出される。化け猫は老若男女に

¹⁷ この項目は言語文化学科鈴木晴日による世宗大学合同ゼミにおける「猫のイメージ比較」を基にまとめた。

¹⁸ 朴庚卿「猫の表象をめぐる日本と韓国の比較文化」『国際日本学論第八号』2011年、39頁。

化けたが、女性の方が多く、特に老婆に化ける傾向がある¹⁹。有名な鍋島の猫騒動では、当主丹波守光茂により客の竜堂寺又八郎が碁の争いから殺害される。それを聞いた又八郎の後室お政の方は自害するが、その怨念が愛猫に憑依し化け猫となって、光茂に復讐しようとするのである。猫は近習の小森半左衛門の母に化けたり、愛妾の豊の方を食い殺してなりすましたりする。また、老母の様子が急におかしくなったため怪しんでいると、実は老母に化けた猫であり、老母はすでに食い殺されていたというパターンの物語も特徴的である。

これらの猫が女性に化ける傾向は、猫の性質が女性に似ているためであるとされている²⁰。怪談などで女性の幽霊の執念深さが強調されていたように、女性は陰険なものとして考えられていた。また、メリメの『カルメン』の有名なセリフにもあるように、猫は気が向かなければ寄りつかず、都合の良いときだけ甘える気まぐれな性格が、女性と同一視されるというのは洋の東西に共通する、猫の普遍的な表象である。女性としての猫を扱った作品に、谷崎潤一郎の小説『猫と庄造と二人のをんな』²¹がある。この作品は、夫と妻と猫の三角関係を描いたものである。庄造は、リリーという雌の猫を飼っているのだが、一人目の妻品子と二人目の妻福子は、仲の良いリリーと庄造に苛立ち、嫉妬する。庄造の人生はリリー抜きでは考えられず、猫は擬人化され、女性としての人格を付与されている。猫であるリリーは一番魅力的な女性として描かれている。

韓国の猫を論じるにあたり重要になってくるのが、韓国社会に中心的な価値観である儒教思想である。儒教社会では、規範や道徳的価値観、身分や上下関係などを重視する。韓国で儒教徳目を教える際、よくたとえられる動物は犬である²²。主人に対する忠実さが評価されたのであろう。これに対して猫は恩知らずな動物として犬と正反対のイメージで語られた。猫は個人行動をする動物で、飼い主に従わない習性を持っている。これは日本やヨーロッパで、自分勝手だとか、自由で気ままな、気位の高いイメージと類似のものである。しかし韓国では、猫が家の内外を自由に行き来するため、規範や身分秩序にとらわれない流動的な存在であるとし、儒教の秩序に反するとみなされ、忌み嫌われた。

韓国では男性が忠実さを表す犬にたとえられるなら、女性は猫にたとえられる。男性は外や公的な場所で労働するのに対し、女性は家の中で働き公的な場所へと出てはならないなど、活動の場が制限されていた。狭い行動範囲と屋内での生活が中心である女性と猫は同一視されている。諺には「猫と嫁の功績は認められない」²³というものがある。『神様お願い』（*하늘을/시/여*, 2005年）では、姑に従わない気ままな嫁が飼っているのは猫であり、「猫を飼うなんて気がしれない」など陰でアジュンマに虐待されている。まだ飼われることが少ない、違和感のあるペットであるようである。また、映画『猫をお願い』²⁴では、猫をかわいがる五人の女性が登場するが、猫を飼おうとするのに対しその祖母が「不吉だか

19 平沢米吉『猫の歴史と奇話【新装版】』築地書館、1992年、57頁。

20 平沢米吉、前掲書、58頁。

21 谷崎潤一郎『猫と庄造と二人のをんな』新潮社、1981年。

22 朴庚卿、前掲論文、43頁。

23 「いくら貢献してもわかってもらえない」の意。朴侖玄『韓流男と女・愛のルール』講談社、2009年、98-99頁。

24 チェン・ジョウン『猫をお願い』マスルピリ、2001年。